

一性質別歳出

義務的経費 16億1,320万3千円（47.3%）			投資的経費 7億4,062万2千円 （21.8%）	その他の経費 10億5,131万6千円 （30.9%）		
人件費 7億1,880万5千円	公債費 7億0,208万4千円		普通建設事業費 7億1,672万2千円	物件費 2億9,629万5千円	補助費等 3億4,482万7千円 繰出立 2億5,088万1千円 繰上金 1億0,113万4千円 維持補修費 3,433万9千円 投資及び出資金 2,384万0千円	
扶助費 1億9,231万4千円			災害復旧事業費 2,390万0千円			

今月号では、「財政状況の作成及び公表に関する法律」に基づき、平成14年度町決算状況報告を紹介いたします。

本町の平成14年度一般会計の決算額は歳入35億1,239万3千円、歳出34億0,514万1千円となり平成13年度に比べて歳入が9,193万5千円、歳出が1億0,66万2千円のそれぞれ増加となりました。

長引く不況に伴う税収の落ち込み等で、国及び地方公共団体の財政状況は悪化しており、今後数年は厳しい財政運営が必要な状態と思われます。

歳入は、国・県の財政難がそのまま町の予算にも影響を及ぼし、国や県から交付される「依存財源」のうち地方交付税が前年度（平成13年度）に比べて1億3,138万5千円の減です。このため予算全体に占める「依存財源」の比率は低下しています。

町が自分で徴収できる財源「自主財源」では、町税収入等は減少しているものの繰入金が増加で21.4%となっています。また町の借金である

町債が歳入の12.6%を占め13年度に比べ7,380万円増加しています。

一方目的別の歳出は、町の借金返済に当てられる公債費が前年度より721万1千円増加し7億0,208万4千円と歳出の約21%を占めて最も多く、以下総務費、民生費、土木費、農林水産業費、教育費の順となっています。

一般会計から切り離して、その収入・支出を管理している特別会計のうち、医療費関係では、老人保健医療会計が前年度歳出額より約2,676万円減少し、医療費が若干抑制されつつあります。国保会計の医療費はほぼ横ばいで推移しており、逆に介護保険会計は各種サービスの増加で約2,722万円の歳出の増となつています。

また簡易水道会計は前年に比べ約3,361万円減少しています。

町では、今後合併を控えており鶴田町、宮之城町の動向も踏まえながら、町民の皆様に効果的な行政サービスができるよう努力していきます。

平成14年度 特別会計の決算

●国民健康保険会計(事業勘定)●

歳入	5億9,563万4千円
歳出	5億6,487万5千円
差引	3,075万9千円

●町立診療所会計●

歳入	1億6,499万4千円
歳出	1億5,877万7千円
差引	621万7千円

●簡易水道会計●

歳入	2億5,296万4千円
歳出	2億4,556万9千円
差引	739万5千円

●老人保健医療会計●

歳入	9億9,604万3千円
歳出	9億9,604万3千円
差引	0千円

～平成14年度末

町債(借入金)現在高～

借入先	借入額	比率
政府資金	40億1,261万3千円	88.0%
公営企業金融公庫	3億7,209万4千円	8.2%
銀行・農協	1億4,827万0千円	3.2%
その他	2,709万2千円	0.6%
合計	45億6,006万9千円	100.0%
町民1人当たり	99万2千円	

●介護保険会計●

歳入	5億2,284万9千円
歳出	5億1,087万6千円
差引	1,197万3千円